



盛岡市プレスリリース

～歴史風土に包まれた 心豊かに芸術文化が生きるまち～

令和8年9月30日

交流推進部文化国際課

市政記者クラブ加盟社 各位

～令和8年度盛岡文士劇公演～ 10月7日にチケット一般販売を開始します

盛岡文士劇実行委員会（会長・川村公司岩手日報社代表取締役社長）は、12月5日・6日に開催する盛岡文士劇公演のチケット一般販売を10月7日に開始します。

岩手ゆかりの作家や多くの著名人、アナウンサーによる文士劇公演を多くの人に周知し、盛り上げていただくため、広く報道していただきますようお願いいたします。

記

【公演日】 令和8年12月5日（土） 16時
12月6日（日） 12時30分
12月6日（日） 16時

【会場】 盛岡劇場 メインホール（盛岡市松尾町3番1号）

【演目】「西遊記」

【入場料】 前売4,000円

【販売開始日】 令和8年10月7日（水）

【取扱窓口】

- 盛岡劇場、市民文化ホール、キャラホール、姫神ホール、プラザおでって、トーサイクラシックホール岩手、岩手日報社、IBC岩手放送（販売開始は各プレイガイドの営業開始時刻）
- ローソンチケット<Lコード22355>（販売開始は9時）

【販売開始日の取材対応】 取扱窓口での取材対応は盛岡劇場に限ります。

【問い合わせ】 盛岡文士劇公演実行委員会事務局

（公益財団法人盛岡市文化振興事業団 盛岡劇場） 久保（くぼ）

TEL 019-622-2258 FAX 019-622-1910

【担当】

盛岡市 交流推進部 文化国際課 芸術文化係
担当：小舘（こだて）

TEL:019-613-8465（直通）

E-mail: bunkakokusai@city.morioka.iwate.jp

令和八年度盛岡文士劇

西游記



脚本 道又力
演出 吉田利成



(作家)
井沢元彦



(作家)
柚月裕子



(作家)
村山由佳



(岩手日本文学賞大賞受賞者)
永山涼太



(作家)
平谷美樹



(漫画家)
そのだつくし



(脚本家)
道又 力
ほか多数出演

盛岡劇場メインホール

12月5日(土) ①午後4時00分開演

12月6日(日) ②午後0時30分開演

※開場は開演の30分前

③午後4時00分開演

チケット発売

令和8年

10月7日(水)

—入場料—

全席 前売券: 4,000

指定 当日券: 4,500円

※完売した場合、当日券の販売はございません。

【プレイガイド】プラザおでって、トーサイクラシックホール岩手、岩手日報社、IBC岩手放送
ローソンチケット (Lコード 22355)、盛岡市民文化ホール、キャラホール、姫神ホール、盛岡劇場
※各プレイガイドによって一度に購入できる枚数に制限があります。詳しくは各プレイガイドにお問い合わせください。

■主催／盛岡文士劇公演実行委員会 ■共催／盛岡市、盛岡市文化振興事業団、岩手県文化振興事業団、岩手日報社、IBC岩手放送、テレビ岩手、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手
岩手ケーブルテレビジョン、ラヂオ・もりおか、岩手県芸術文化協会、盛岡芸術協会、盛岡商工会議所 ■後援／盛岡市教育委員会、岩手県、岩手県教育委員会、NHK盛岡放送局、朝日新聞盛岡総局
毎日新聞社盛岡支局、読売新聞社盛岡支局、日本経済新聞社盛岡支局、河北新報社、共同通信社盛岡支局、時事通信社盛岡支局

お問い合わせ 盛岡劇場 019-622-2258

令和八年度

盛岡文士劇

『西遊記』

■あらすじ

食べれば永遠の命が得られる桃が、九千年ぶりに天界で実を結んだ。一匹の猿が忍び込み、その桃を食べてしまう。猿の名は、孫悟空。釈迦如来が現れ、悟空を五行山に封じ込め、「五百年後、ある徳の高い僧が、お前を救うであろう」と言い残して去る。

五百年の時が流れた。貴い経典を持ち帰るため天竺を目指す三蔵法師が、五行山のふもとを通りかかる。悟空は助けてもらった礼に、三蔵の最初の弟子となる。旅の途中で、豚の化け物の猪八戒、続いて河童の化け物の沙悟浄が弟子に加わった。一行の行く手を遮るのは、妖怪の金角銀角と鉄扇公主。果たして悟空たちは無事、天竺まで辿り着けるのであろうか？

■脚 本：道又 力

■演 出：吉田 利成

■キャスト

井沢 元彦（作家）

柚月 裕子（作家）

村山 由佳（作家）

永山 涼太（岩手日報文学賞大賞受賞者）

平谷 美樹（作家）

そのだつくし（漫画家）

道又 力（脚本家）

内舘 茂（盛岡市長）

南部 利文（南部家第46代当主）

阿部 知彦（岩手日報社）

山川 愛実（共同通信社盛岡支局）

大塚 富夫（IBC岩手放送アナウンサー）※声の出演

高橋佳代子（フリーアナウンサー）※声の出演

今井日奈子（IBC岩手放送アナウンサー）

井丸 貴弘（IBC岩手放送アナウンサー）

加美山結葉（2026ミスさんさ踊り）

八重樫 潮（2026ミスさんさ踊り）

関原 敬史（もりおかアクションクラブ）

井上 敬太（もりおかアクションクラブ）

五枚橋須美子（もりおかアクションクラブ）

佐々木太一（もりおかアクションクラブ）

高橋 寿（もりおかアクションクラブ）

金 裕己（もりおかアクションクラブ）

※出演者は都合により変更となる場合があります。予めご了承ください。

盛岡劇場と文士劇

大正2年9月に東北初の演劇専用劇場として誕生した盛岡劇場は、東京駅を建設した辰野・葛西建築事務所の設計により、建築様式はルネッサンス様式であるが、劇場は廻り舞台や本花道、仮花道、大臣囲いなどをもつ典型的な歌舞伎劇場となっていました。その後、谷村文化センターの時代を経て、平成2年7月に盛岡市が市制施行100周年記念事業として、河南公民館を併設した現在の盛岡劇場を開館し現在に至ります。

盛岡での文士劇は、この盛岡劇場を舞台として、昭和24年に始まり、一度は中断するも、平成7年に盛岡在住の直木賞作家高橋克彦氏を座長として復活しました。令和7年には30回目を迎えるなど、現在続いている国内の文士劇では唯一の存在となっており、出演者には県内在住の作家（文士）を始め、多くの著名人に出演いただいています。

今年の文士劇は、観劇しやすい環境や持続可能な運営体制とするため、演目を一本化するとともに、上演時間の短縮を図ったところです。今後も皆様により楽しんでいただけるよう取り組んでまいりますので、変わらぬご支援をお願いします。

■館内案内／畑中美耶子

■舞台監督／KSK stage service 高橋圭介 ■舞台美術／わらび座 高橋知佐 ■大道具・置道具／(株)ベイス

■照明・音響／(株)アクト・ディヴァイス ■かつら・ヘア・メイク・衣装／橋本かつら店、葛尾和子、北日本ヘア・スタイリストカレッジ

■音楽／高井翼 ■協力／盛岡演劇協会、もりおかアクションクラブほか